

## ▼ロドピネ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】ゾテピン zotepine 【分類】統合失調症治療剤

【単位】▼25mg/錠

【常用量】75～150mg/日 [最大 450mg/日]

【用法】分割投与

【透析患者への投与方法】尿中未変化体排泄率が低いいため、減量する必要はない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【特徴】独自の化学構造を持つチエピン系抗精神病薬で、従来のフェノチアジン、ブチロフェノンと比較して薬理作用が若干異なる。中枢神経系でドパミン系、セロトニン系、ノルアドレナリン系の3者に対し遮断作用を有するが、抗ドパミン作用よりも抗セロトニン作用が強いという点が特徴で、情動障害（躁病・分裂情動型統合失調症）に対しても有用であると考えられる。比較的少量（100mg/日前後）で精神活化作用を示し、300mg/日以上的大量で、緊張、興奮、衝動性、感情易変性、幻覚妄想などに有効。

【主な副作用・毒性】眠気、脱力・倦怠感、不眠、口渇、便秘、めまい、悪性症候群、心電図異常、麻痺性イレウス、痙攣、遅発性ジスキネジア、SIADH、錐体外路症状、発疹、内分泌異常、肝障害、消化器症状、血圧降下、頻脈など

【吸収】速やかに、完全に吸収される (Arzneimittelforschung 29: 1595-1600,1979) 90～100% (11)

【F】7～13% (11)

【tmax】1～4hr (1) 3.8hr (Ther Drug Monit 20: 117-119,1998)

【代謝】N脱メチル化、NあるいはS原子の酸化、芳香環の水酸化に続いて抱合される (Arzneimittelforschung 29: 1595-1600,1979) 尿中および胆汁排泄される前に完全に代謝される (11)

【排泄】尿中への未変化体の排泄はわずかで、胆汁・糞便中排泄が主で、ラットでは腸肝循環する (Arzneimittelforschung 29: 1595-1600,1979) 【CL】77mL/min/kg (Ther Drug Monit 20: 117-119,1998)

【t1/2】約8hr (1) 21hr (Ther Drug Monit 20: 117-119,1998) 12～24hr (11)

【蛋白結合率】約97% (1)

【Vd】10L/kg (11) 【分布】肝、腎、肺、心、脳に分布する。臓器内濃度は血清濃度よりも高い (11) ラットやマウスでは脳内濃度は血漿濃度の20～30倍高い (Arzneimittelforschung 29: 1595-1600, 1979)

【MW】331.86

【透析性】蛋白結合率が高く、Vdも大きいため、透析で除去されにくいと思われる (5)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない 【pKa】7.0 (1)

【相互作用】アドレナリンの作用逆転のため併用禁忌 (1)

【更新日】20141104

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。